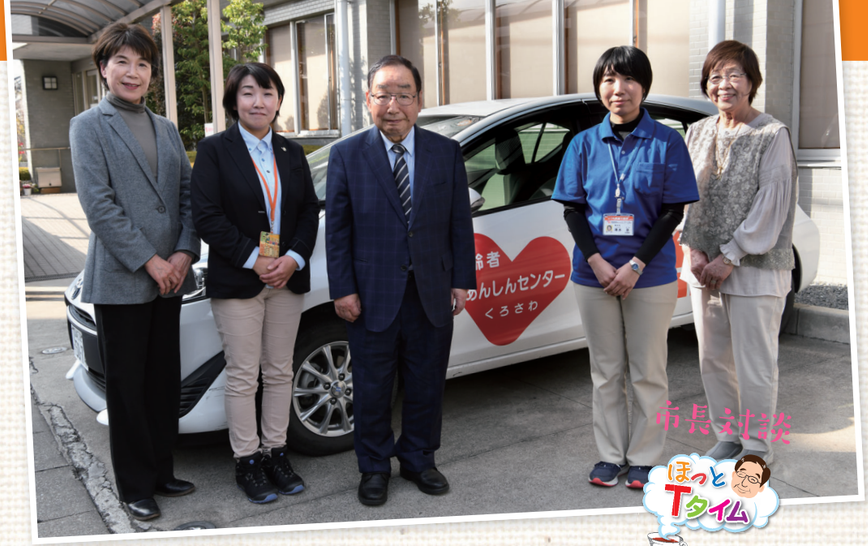

富岡 賢治市長

高齢者やその家族の不安を減らしたいと考え、全国に先駆けた福祉施策に取り組んでいる

清水 恵さん

高齢者あんしんセンターこまいの管理者・保健師。地域の高齢者の相談に乗る

品田 佳江さん

介護予防サポーター、オレンジサポーターなどを務める。認知症カフェの運営にも携わる

木暮 秀美さん

高齢者あんしんセンターくろさわの管理者。主任ケアマネージャーとして活躍

美濃岡 登美子さん

中央地区民生委員児童委員協議会会長。一人暮らしの高齢者などの支援を行う

待つ福祉から出向く福祉へ

高齢者あんしんセンター

今年で8年目を迎える高齢者あんしんセンター。「待つ福祉から出向く福祉へ」を合言葉に、地域に根差した活動を行っています。高齢者を支える地域の福祉の現状とこれからについて、あんしんセンター職員、民生委員、高齢者福祉に関わるボランティアの皆さんをお迎えして、それぞれの立場からお話を伺います。

「出向く福祉」に欠かせない地域のチカラ

市長　全国的に行われている地域包括支援センターの制度は、相談者が窓口に来るのを待つという仕組みで、「来てもらう」というやり方に私は疑問を感じていました。そこで、このやり方を変えて、こちらから出向いて、困っていることはないか聞くという仕組みでスタートしたのが、本市の「高齢者あんしんセンター」です。民生委員さんやボランティアの皆さんには大変ご協力いただいていますが、民生委員さんを介して相談される人にはどのような方がいますか。

美濃岡　ご家族が遠くにいる人、近くにいても疎遠になっている人、一人暮らしの人などさまざまです。

市長　具体的にはどのような相談があるんですか。

美濃岡　施設に入ったほうがいいのかという悩みや、食事やごみ出しなど日常生活に関することが多いですね。あんしんセンターに相談して、市の「ごみ出しSOSサービス」を紹介することができ、喜ばれたこともありました。

市長　いざというときに手を差し伸べてくれるのが民生委員さんの存在ですね。品田さんは、オレンジサポーターや介護予防サポーター、認知症カフェの運営など、いろいろなことをやっていただいていますね。

品田　民生委員をしていたときに、あんしんセンターなどで開催されているいろいろな研修を受講したのがきっかけでした。傾聴ボランティアとして高齢の方の話をお聞きしましたが、80歳・90歳くらいになると、自分の人生を振り返って誰かに話を聞いてもらいたいんですよね。戦争に行った時のことを詳しく話してくれる人もいました。身内ではなくて、他人だから話しやすいということもあると思います。

市長　そうですか。以前と比べて家族に昔の話をするという機会はなかなかありませんからね。その他の活動ではいかがですか。

品田　コロナ禍でふれあい・いきいきサロンもなかなか開催できませんでしたが、吉井中央公園で体操をしたら、「みんなと話ができて生き返った」と言ってくれる人がいました。公園に来ていた周りの人も参加してくれて。コロナで誰にも会えないということが本当につらいことなんだと分かりました。

8年目を迎え、広がる高齢者支援のネットワーク

市長　さて、民生委員さんやボランティアの方々とともに、出向く福祉を実践するのが高齢者あんしんセンターの皆さんです。木暮さんのところは中居地区でしたね。どのような経緯であんしんセンターに携わるようになったのですか。

木暮　以前、特別養護老人ホームに栄養士として勤めていたときに介護支援専門員の資格を取得して、ケアマネージャーになりました。

市長　今、あんしんセンターには多くの相談が寄せられていると思いますが、関わっている人で心配な方は多いですか。

木暮　そうですね。在宅を希望する人でも、家族には介護の面で頼りたくない、迷惑をかけたくないという思いがあるようです。「この方はちょっと心配だな」と思う方が多くなっています。

市長　今は自分の親が心配と思っても、なかなか深く関わってあげられないというご家族も多いですよね。そういうときは、あんしんセンターを利用してどんどん相談してもらいたいですね。

木暮　そうですね。

市長　清水さんはもともと保健師で、現在はセンターの管理者という立場でいらっしゃいますが、やはりお年寄りの健康には目が行きますか。

清水　そうですね。元々看護師としても働いていたので。あんしんセンターでは社会福祉士と主任介護支援専門員、そして保健師という3職種がチームになって1人の人を見るということを心がけています。

市長　訪問していて、うまくいかないな、と思うこともありますか。

清水　はい。なかなか自分たちだけでは対応できないこともありますが、他のセンターに聞いてみることもありますし、民生委員さんやボランティアさんをはじめ、地域のことをよく知っている方とのつながりが増え、その中で解決策を見つけていくことも多いです。

「介護」と「子育て」家庭を支える福祉の視点

市長　家族や地域と疎遠になっている人や高齢者が、高齢者を介護するという場合もあります。あんしんセンターの皆さんや民生委員さん、ボランティアさんの訪問を通じて困っていることを気軽に相談してもらいたい。高崎市では、介護で困っている人のお手伝いをする「介護SOSサービス」という制度も作りました。子育て世代にも言えることですが、毎日の食事や掃除、身の回りのことに負担や苦労を感じている人は多いんです。時にはそのような負担から離れたり、リフレッシュしたりしてもらえるような仕組みを整えています。

美濃岡　私の家族も託児ルームの「けやき」をよく利用させてもらっています。

品田　便利だという評判を聞きますよ。

市長　「けやき」や「かしの木」では、理由を問わずにお子さんをお預かりしています。子育ても介護も、気軽に利用できるサービスで、ご家庭の生活を支えたいと思っています。これからも、それぞれの立場で高齢者の支援をよろしくお願いします。本日はありがとうございました。

一同　ありがとうございました。

介護予防教室などを開催